

(1. 解答例)

桜島の溶岩を伴う有史の噴火は、天平、文明、安永、大正、昭和の5回である。天平噴火は現在の鍋山が火口と考えられている。文明、安永、大正の噴火は島の中心からほぼ対称の山腹噴火である。安永噴火では当時の海底下にマグマが貫入し、海底が隆起して6つの島が誕生した。新島の上面は安永時代の水深百メートルほどの海底面である。大正噴火では鍋山付近から噴出した溶岩が桜島と大隅半島の間にあった瀬戸海峡を埋め立て、桜島は陸続きになった。また、西側の引ノ平から流れ出た溶岩も海まで達した。(233字)

(2. 解答例)

16世紀後半、肥後・肥前的大名を破り、北九州への影響力も強めた島津氏は、九州制覇が目前に迫ったが、全国統一を目指す豊臣秀吉による島津征伐が1586年から行われた。度重なる戦の後、1587年、島津義久は剃髪して泰平寺で秀吉に謁見し、恭順の意を示した。この征伐での豊臣方の立役者は軍師・黒田孝高(官兵衛)と言われる。秀吉亡き後の関ヶ原合戦では黒田孝高(官兵衛)・長政父子が家康率いる東軍で戦ったのに対し、島津義弘は三成率いる西軍で戦った。黒田孝高(官兵衛)は、関ヶ原合戦後の島津総攻撃の大將でもあった。(234～237字)

(3. 解答例)

霧島市隼人町内にあり、大隅国一の宮、国分八幡宮とも呼ばれる。現在の社殿は宝暦年間に藩主の島津氏が寄進したという。随所に彫刻を施された優美な丹塗りの造作は、三国(薩摩・大隅・日向)きっての大社、とうたわれたほどである。早春に催される恒例の初午祭が人気だ。造花やポンパチ(豆太鼓)などで飾り立てた鈴掛け馬が踊り連を引き連れて周辺から参集し、三味線、鉦、太鼓のおはやしに乗って軽快なステップを披露する。(198字)

(4. 解答例)

定期航路として3つの航路があり、3種類のフェリーが就航している。鹿児島港本港区と桜島港を約15分で結ぶ桜島フェリーは、24時間運航を行っており、人、車の輸送量はともに日本一を誇っている。鹿児島市の鴨池港と垂水市の垂水港を約35分で結ぶ鴨池・垂水フェリーは、物資輸送のほか通勤・通学の足としても利用されている。指宿市の山川港と南大隅町の根占港を約50分で結ぶ山川・根占フェリーは、国道269号の海上区間に相当する“海の国道”となっている。(218字)

(5. 解答例)

- ①日置郡市来町 ②マグロ ③薩摩金山蔵 ④冠嶽園 ⑤乾杯

【200字程度の文章】

薩英戦争後、西洋の技術におよばないことを痛感した薩摩藩は、積極的に西洋に学び国力の増強をすすめるべきとし、海外渡航の禁制を破り、寺島宗則や五代友厚らの使節と留学生を藩費で甑島・大島視察と称し、密かに英国に派遣し、西洋の近代的な技術と知識を学ばせた。英国への出発の場所とされるこの地は「薩摩藩英国留学生渡欧の地」として、記念碑が建てられ、近代国家への扉を開けた派遣団の功績を称えている。(192字)